

## トマトキバガに注意！

### 1 発生状況

- ・羽曳野市に設置しているトマトキバガ侵入警戒調査用フェロモントラップで10月に13頭の誘殺を確認し、昨年同時期の5頭と比較して誘殺頭数が増えている。
- ・神戸植物防疫所大阪支所が大阪市内に設置しているフェロモントラップでは、10月下旬に2頭の誘殺が確認されている。
- ・国内では、令和3年11月に熊本県で初確認されてから、令和6年10月28日までに46都道府県でフェロモントラップでの誘殺が確認されている。また、令和6年度には5道県で、施設トマトほ場等で被害が確認されている。

### 2 形態と被害

#### (1) 形態

- ・成虫（図1）は、体長5～7mm（翅を広げると約10mm）である。前翅は灰褐色に黒色斑が散在し、後翅は一様に淡黒褐色である。
- ・幼虫（図2）は、終齢で約8mmである。色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面に黒い筋がある。

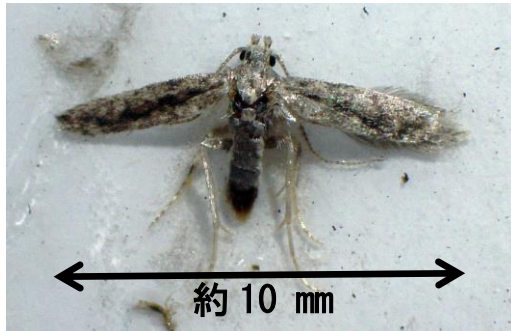


図1 成虫



図2 終齢幼虫

#### (2) 被害

- ・主な寄主植物はトマト・ナス・ピーマン・トウガラシなどのナス科であり、マメ科のインゲンマメでも確認されている。
- ・トマトでは、幼虫が茎や葉に潜り込んで食害する。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になる（図3）。果実では、幼虫が侵入して内部を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空くとともに、二次的に感染した病原菌により腐敗するため、品質が低下する（図4）。



図3 葉の被害



図4 果実の被害

※図2～4：農林水産省「植物防疫所病害虫情報 No.127」原図。無断転載を禁ずる。

※参考：カラー技術資料  
「トマトキバガ 生態と防除」



[https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/tomatokibaga\\_osaka.pdf](https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/tomatokibaga_osaka.pdf)

### 3 防除方法

#### (1) 耕種的防除

- ① 施設栽培では、ハウスの開口部（出入口、ハウスサイド、天窗など）に0.4mm目合いの防虫ネット等を設置し、侵入を防止する。
- ② ほ場内をよく見回り、見つけしだい捕殺する。
- ③ 被害葉や被害果実は、速やかにほ場から持ち出し、適切に処分する。

#### (2) 薬剤による防除

- ① トマト、ミニトマトでは別表を参考に登録農薬を散布する。
- ② 薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（RACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

※発生が疑われる場合は、速やかに病害虫防除グループや最寄りの農の普及課、JAに確認する。

別表：トマトキバガに登録のある薬剤例

（登録は令和6年11月1日現在）

薬剤名	系統(IRAC)	トマト	ミニ トマト	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数
ディアナSC	スピノシン系(5)	○	○	2500~5000倍	収穫前日	2回
ラディアントSC	スピノシン系(5)	○	○	2500~5000倍	収穫前日	2回
ダブルシューターSE	スピノシン系(5)・ー	○	○	1000倍	収穫前日	2回
アフーム乳剤	アベルメクチン系(6)	○	○	2000倍	収穫前日	5回
アグリメック	アベルメクチン系(6)	○	×	500~1000倍	収穫前日	3回
アニキ乳剤	アベルメクチン系(6)	○	○	1000倍	収穫前日	3回
エスマルクDF	BT(11A)	○	○	1000倍	発生初期 但し 収穫前日まで	—
チューンアップ顆粒水和剤	BT(11A)	○	○	2000倍	発生初期 但し 収穫前日まで	—
コテツフロアブル	ピロール系(13)	○	○	2000倍	収穫前日	3回
トルネードエースDF	オキサジアジン系(22A)	○	×	2000倍	収穫前日	2回
ファイントリムDF	オキサジアジン系(22A)	○	×	2000倍	収穫前日	2回
アクセルフロアブル	セミカルバゾン系(22B)	○	○	1000倍	収穫前日	3回
ベネビアOD	ジアミド系(28)	○	○	2000倍	収穫前日	3回
ベリマークSC	ジアミド系(28)	○	○	400株当り25ml/ 10~20L希釈	育苗期後半 ~定植当日	1回
プリロッソ粒剤	ジアミド系(28)	○	○	2g/株	育苗期後半 ~定植時	1回
プリロッソ粒剤オメガ	ジアミド系(28)	○	○	2g/株	育苗期後半 ~定植時	1回
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系(28)	○	○	2000倍	収穫前日	2回
ヨーバルフロアブル	ジアミド系(28)	○	○	2500倍	収穫前日まで	3回
グレーシア乳剤	イソオキサゾリン系(30)	○	○	2000倍	収穫前日	2回
プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	○	○	1000倍	収穫前日	2回

※ディアナSC、ラディアントSCに含まれるスピネトラムの総使用回数は2回以内、トルネードエースDF、ファイントリムDFに含まれるインドキサカルブの総使用回数は2回以内、ベネビアOD、ベリマークSC、プリロッソ粒剤、プリロッソ粒剤オメガに含まれるシアントラニリプロールの総使用回数は4回以内(定植時までの処理及び定植直後の株元かん注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)。

・最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。

(<https://pesticide.maff.go.jp/>)